

実践人間学 執筆規定

1. 投稿について

- ・「実践人間学」への投稿は随時、受け付ける。
- ・採択された原稿は、同ホームページ上で公開する。
- ・原稿の種別は総論、論文、資料、実践報告、調査報告、文献紹介、書評、意見とする。種別は査読者による審査のうえ、判断する。
- ・原稿は日本語に限る。
- ・原稿の長さは原則として、掲載の体裁で 10 ページ（約 16,000 字）までとする。これには英文抄録、図・表、写真などを含める。
- ・論文には、英文抄録を必ずつけるものとする。抄録には研究の目的、方法、結論を具体的に記述し、論文の内容と一致するように注意する。英文抄録の長さは原則として刷り上がり 1 ページ以内とする。英文は 350 語以内におさまるようにする。英文に熟達した人の校閲を受けてから提出する。

※なお、この雑誌はひとに関する研究論文を掲載しているが、査読者の専門がすべてを網羅しているわけではなく、内容によっては適正な審査をすることができない場合がある。その場合には編集委員会で協議し、投稿された論文を受理しないという結論になることがある。その場合、納められた投稿料は投稿者に返却する。

- ・原稿の構成は次の通りとする。
 - a) 第 1 枚目を審査依頼書とする。審査依頼書の書式は自由であるが、題目（日本語および英語）、所属（正式名称を記すこと。大学教員は大学名のみでよい。大学院生は大学名とともに学生である旨を明記すること）、氏名（日本語および英語）、連名原稿の場合には連絡責任者、その連絡先（原則としてメールにてやりとりを行うため、Eメールアドレス及び電話番号など）をもれなく記載する。
 - b) 第 2 枚目から題目（日本語および英語）と本文を記す。
 - c) 本文中の見出し（「問題と目的」、「方法」、「結果と考察」など）はゴシック体にし、ローマ数字（Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ．…）の番号を付ける。見出し「文献」はゴシック体にし 番号は付けない。ローマ数字を用いた見出しの次の小見出しはゴシック体にし、算用数字（1．2．3．…）を用いて番号を付ける。見出し作成にあたり、自動の段落番号（改行すると自動的に番号が現れる機能）を用いない。
 - d) 本文の字体は、日本語は MS 明朝、英語や数字は century を用いる。

・投稿は下記メールアドレス宛に「原稿の投稿」という題目で、原稿を添付したメールを送信する。諸事情により郵送で原稿を投稿する場合は、印字された原稿と、原稿を保存した CD-ROM あるいは USB メモリーを送付する。なお、提出する CD-ROM 等には原稿・図・表以外のものを入れないこと。

提出先

E-mail : jissenningen@gmail.com

※郵送する場合→ 〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12

- ・投稿に際し、6,000 円の投稿料を納入する。
- ・原稿が採択された場合は別途、4,000 円の掲載料を納入する。

・投稿料および掲載料について

- a) 投稿に際し、審査等に要する費用として 6,000 円を、振込にて支払う。
- b) 掲載が決定した場合には、決定通知を得て 2 週間以内に掲載料 4,000 円を、振込にて支払う。
- c) 振込先は、投稿料と掲載料のいずれも下記の口座である。

振込先：みずほ銀行，千住支店，普通口座，口座番号 1451182，加入者「実践人間学研究会」

2. ページのレイアウトについて

(1) タイトルおよび本文

- ・A4 用紙の余白上下 25mm、左右 20mm とする。
- ・本文は 2 段組みにし、1 ページの 1 段につき 21 字×40 行とする。
- ・タイトルは 3 行目以降に、中央寄せで配置する。
- ・タイトルは、主題については 16 ポイント、副題については 10.5 ポイントとする。
- ・所属と氏名はタイトル（主題及び副題）から 1 行空けて、右寄せで配置する。
- ・所属は 10.5 ポイントとし、氏名は 11 ポイントで所属から 1 文字分空けて記す。
氏名は 5 字の均等割り付けとする。
- ・本文は、所属及び氏名から 1 行空けて配置する。
- ・本文の文字の大きさは 10.5 ポイントとする。
- ・本文（和文）の句読点は「、」「。」を使用し、英文は「,」「.」を使用する。
- ・本文中の「はじめに」「方法」「結果」「考察」「まとめ」「文献」等の小項目については、上に 1 行空けて配置する。
- ・本文中に示される統計値については、行替えて値が割れないように配置する。

3. 使用する文字のタイプ

- ・本文に小項目をつける場合は、「はじめに」「方法」「結果」等については I. II. III. ...を用いる。これ以降は、1. 2. 3. ...、(1) (2) (3) ...、①、②、③...の順に用いることを原則とする。
- ・I. II. III. ...および文献、1. 2. 3. ...の項目名はゴシックを用いる。
- ・文字はタイトル、所属、氏名、本文のいずれも明朝体を用いる。また、数字や本文中のアルファベット、英文抄録は半角で表示し、**century** を用いる。
- ・本文中に示される統計の手法及び統計値は、斜字を用いる
例) χ^2 検定, *Fisher*, *t* 検定, $p < 0.01$
- ・図表タイトルは明朝体を用いる。
- ・英文抄録は、タイトルと抄録のみ記載し、所属、氏名は書かない。

- ・英文抄録のタイトルは、助詞等を除いて単語の1字目のみ大文字とする。
本文の段落の最初は全角で1字下げする。

4. 書式の設定

(1) 本文

- ・本文において文献を引用する場合は、初出のみ著者全員の苗字を中黒点でつなぐ。2回目以降の引用の場合、著者2名までは初出時と同様に書き、著者3名以上は筆頭著者の苗字のみを記してその後に「ら」をつける。

例) 初出の場合：西館・西館・西伊達（2010）によると…。

例) 初出の場合；～とされている（西館・西館・西伊達，2010）。

例) 再出の場合：西館ら（2010）によると…。

(2) 図表の書き方

- ・表タイトルは表の上に、図タイトルは図の下につける。図表番号は半角英数字を用い、番号の次に全角ドット「.」を打ち、タイトルを記す。
- ・図表は頁の一番上か、一番下に配置されるようにする。
- ・図表はタイトルを含めて中央配置とする。

(3) 文献の書き方

- ・文献欄は、アルファベット順に掲載し、文献の頭に番号や中黒点等は付けない。
- ・文献が2行以上にわたる場合は、2行目以降を1字下げする。
- ・英語文献は、字間が空きすぎないように調節する。
- ・英文の文献について、雑誌引用においては雑誌名を、図書引用においては図書タイトルを斜字（イタリック体）にする。

<雑誌の場合>

著者名（発行年）論文タイトル，雑誌名，巻号，頁数.

例) 住吉智子・越後谷里帆・沼野博子（2017）新潟県の保育所における食物アレルギーの教育機会と保育士対応に関する研究，保育と保健，23(2)，50-53.

└─▶ ゴチック体に

<図書の場合>

〇〇・△△編著（発行年）『本のタイトル』，出版社.

著者名

著者名（発行年）引用した章や項などのタイトル，〇〇・△△編著『本のタイトル』，出版社，頁数.

※翻訳本の場合は、原本の情報を掲載し、その後に（ ）書きで翻訳本の情報を載せてください。

例) TOKUDA, K. (2012). *My Best Drama in Korea*, New York: Love Drama.

(TOKUDA, K., 水野智美 (訳) (2013) 『私が最も愛する韓国ドラマ』, 文化書房博文社)

<インターネットからの引用の場合>

文部科学省 (2013) ページのタイトル, 文部科学省, <<http://www.....>>, (閲覧日〇年〇月〇日).

上下余白 25 mm



左右余白

20 mm

□□□□□□ 英文 タイトル(16pt) □□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□ 英文 副題(10.5pt) □□□□□□□□□□□□

抄録本文 (350 語以内を目安とする) □□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□

□□□

□□